

学報

No. 70

愛知県立芸術大学

巻頭特集

新野外ステージ「地形劇場」設立



新野外ステージ「地形劇場」設立



2022年12月、音楽学部棟前に建設中だった野外ステージ「地形劇場」が完成しました。音楽学部棟の地下1階部分をステージとして、自然のまま残されていたすり鉢状の地形に客席を整備。クラウドファンディングの活用も大きな話題となりました。今後、この新しい劇場でどのような催しが期待されるのか、先生方にお話を伺いました。

元々の環境を活かした 野外ステージ建設

戸山 野外ステージを作りたいと考えた最初のきっかけは、緑豊かな森の中というキャンパスのロケーションにあります。ヨーロッパでは、パークコンサートや屋外でのオペラ、アートなどが日常的に行われているのはご存じのとおりです。街中のキャンパスと違って、そういったことがこのキャンパスだったらできるだろうと考えました。逆に言うと、このキャンパスを活かさない手はないだろう、と。

安原 新しい音楽学部棟ができてからも10年になりますが、その準備段階で設計図を見た時に、このスペースは当然、劇場だろうと思っていました。下にコンクリートの土間があったり、扇形の傾斜がありましたから。ところが出て、扇形の傾斜がありましたが、傾斜は少し急な来上がつてみると、席はないし、傾斜は少し急だった。よく聞いてみたら、あれは元々の地形を活かして、風景の中に地形を取り入れたデザインだったんですね。その時から「ステージ

だったらいいのにな」とずっと思っていたところ、2年ほど前に地形劇場の計画がスタートしました。個人的には「やっとその番が来たんだ」と思っています。

戸山 建物の中で美術作品を観る、あるいはホールの中で音楽を聴くこと、自然の中で美術や音楽を鑑賞することは、感じる側としては相当違うのではないかと思います。学生だけじゃなくて、市民、市民の皆さまが気楽に音楽やアートを楽しむ場になれたらいいですね。地形劇場のステージの上に広いバルコニーがあります。ここにトランペットなどを並べて演奏すると、座っているお客様の下からも横からも後ろからも音が響いてくるでしょう。

倉地 ここは「大学のへそ」みたいな存在なので、アートの絡めていろいろやってみよう。本学を設計した吉村順三さんは、南北・東西に走る風の道というランドスケープを計画しました。こういったランドスケープの良さと、地球規模で形成された元々の地形。その接点が、地形劇場のある場所です。そういう意味で、「大学のへそ」だと思ってしまうわけです。ただのコンサ-



学長
戸山 俊樹 とやま・としき

愛知県立芸術大学 学長
東京藝術大学大学院オペラ科修了。2009年本学音楽学部部長兼研究科長、2013年本学副学長、2019年より本学第11代学長に就任。



副学長
倉地 久 くらち・ひさし

愛知県立芸術大学 副学長
本学美術学部絵画専攻油画卒業、同大学院美術研究科油画専攻修了。2017年本学芸術資料館長、2020年本学美術学部部長兼研究科長。2022年より本学副学長に就任。専門分野は版画表現、現代版画。



美術学部部長兼研究科長
長井 千春 ながい・ちはる

愛知県立芸術大学 美術学部部長兼研究科長
(美術学部 デザイン・工芸科 陶磁専攻 教授 博士(学術))
千葉大学工学部工業意匠学科卒業。同大学院工学研究科意匠学専攻修了。国立芸術デザイン大学Burg Giebichenstein Halle (ドイツ) 卒業。2022年より美術学部部長兼研究科長。専門分野は陶磁器デザイン、近代陶磁器デザイン史。



音楽学部部長兼研究科長
安原 雅之 やすはら・まさゆき

愛知県立芸術大学 音楽学部部長兼研究科長
(音楽学部 音楽科作曲専攻 音楽学コース 教授)
東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院音楽研究科(修士課程)音楽学専攻修了。2021年より音楽学部部長兼研究科長。専門分野は音楽学(西洋音楽史)。



ト会場じゃない、地球規模で考えられている気がしてなりません。

戸山 なるほど。私は、講義棟は「大学の背骨」と言っています。キャンパスの「背骨」と「へそ」ができたのですね(笑)。この場所を活かせるアイデアが音楽からも美術からも出てきて、「こういう使い方をしたいから、こうあった方がいい」といった議論を重ねていければ、もっとおもしろくなりますよ。これで完成ではなくて、今から皆で作っていくのです。

安原 ソフト面でも、ハード面でも、両方そうですね。

倉地 ちょうど2022年4月からメディア映像専攻が始まりましたし、アート方面からも、できることが広がりそうです。

学外からの支援と期待が実現の推進力に

戸山 もともとの地形を壊さずにできるあの場所に野外ステージ建設計画が持ち上がったのは、ある意味自然な流れでした。でもやっぱり予算的な問題もあった。そこで、クラウド

ファンディングをやってみよう、という話になりました。本学として初めての試みでしたから、先生方にはたくさんのご尽力をいただき、ありがとうございました。

長井 クラウドファンディングを通じて大学の取り組みを外部に公開し、「こういうことを考えているので皆さまのご協力を」と呼びかけることは、ある意味、共感を得て実現させることになるわけですね。広報的な役割も果たせたのではないのでしょうか。

倉地 それもあるし、「誰も経験がないので、一度やってみましょう」と実行できる雰囲気良かったですね。

安原 目標を達成できるのかどうか全くわからない状態でしたが、始まってすぐに目標達成間近となり、コメントもたくさん届きました。「共感を得る」ということが、本当に実感できました。

倉地 びつくりしましたね。

安原 卒業生から「すぐ期待している」「楽しみだ」「ドキドキワクワクした」という意見が毎日のように届いていましたよ。

長井 こういうやり方は、今後も活かしてい



くといいいのではないかと思います。やはり、目標を達成すること、そして、外に向かつてやりたいことを発信して共感してもらえらるということは、新しい挑戦でしたから。いろいろな企業に寄付をお願いするよりは、よほど説得力がありました。

戸山 私も、毎日のように「どれくらい寄付が集まったんだろう」とチェックしていました。そうすると、卒業生が寄付してくれて、コメントも書いてくれます。卒業後も本学へ関心を持ち、応援してくれることがとても嬉しかったです。また、卒業生のコメントから「できればここを使わせてほしい」という意見が挙がっていることも知りました。そういう繋がりは大切にしていきたいですね。

フレキシブルな交流が新たな芸術を生み出す

安原 今回、クラウドファンディングを行って実現できたという経緯を考えると、地形劇場は今後自然と卒業生や学外の方に来ていただく、使っていたくというものになるのかなという気はします。現役の学生だけが使うものではなく、もっと開かれた表現の場所になっていくでしょう。それにふさわしい形で実現できたのではないかと思います。

戸山 今の音楽学部棟が完成してから10年ですから、それ以前の卒業生はここを知らないのです。だから、ここで弾いてみたいと思う卒業生は絶対いますし、現役生と一緒に演奏してほしいですね。

倉地 それはおもしろいですね。公募して、コンテンツみたいにして。

戸山 これまで、ソロ演奏家として活躍する

卒業生が音響の良い室内楽ホールで演奏する事はありました。ここに地形劇場が加わると、外との繋がりがもつと自然発生的に広がると思います。先日、本学ピアノコース卒業生の清野雅子さんと30年ぶりにお会いし、お話しする機会がありました。彼女は卒業して中学校教師となりましたが、今やウインドオーケストラ指導者として圧倒的存在となっています。彼女の指導するウインドオーケはコンクール全国大会で毎回のように入賞を受賞しています。

本学の卒業生には、ソリストだけでなく、こういう形で活躍している人もいます。彼女が指揮するウインドオーケストラの中に、現役の学生たちも加わって一緒に演奏すれば、お互い刺激になるでしょう。そんな話が飛び出したのも、あの地形劇場がきっかけになったと思います。

安原 音楽と美術が一緒になった展開も考えられますよね。

倉地 そうですね。メディア映像専攻ができましたから、パフォーマンスと映像を絡めて何かできると思います。作曲とアートが絡むものもありそうですね。あとは、学生の課外活動として演劇やパフォーマンスをしている部活動にはいい発表の場にもなるだろうし、いろいろな展開が考えられます。ファイナート系にも、オルタナティブとか、美術館じゃないところ、どういう作品を作っていくのかという志向の学生や先生がいます。コンサート会場や演劇舞台という設定ではなく、地形劇場がひとつのアートの器として、新たな表現を生み出すというところもあるだろうと思います。

長井 例えば、野外モニターみたいなものをうまく設置できれば、映像作品の上映や鑑賞を大々的にできますね。野外映画館みたいな感

じになるのではないだろうか。

倉地 夕方とか夜の雰囲気はまた良さそうですね。

安原 プロジェクションマッピングのアイデアは挙がっています。まだまだ検討中ですし追加整備が必要ですが、ガラスの壁面を利用すれば可能性はあるかもしれませんね。

戸山 今はまだ客席に照明はありませんので、夕方や夜の利用を考えるなら、座席や階段の照明も必要です。

長井 そういうことができれば、もつと美術や演劇でも活用できそうです。

戸山 実は、屋外で音楽を楽しむには、期間がすごく限定されるんです。真夏の暑さ、真冬の寒さではなかなか使えない。そういう時にも、美術なんかの活用ができればいいですね。

倉地 そうですね。もしかしら、風がちょうとおもしろい抜け方をするしたら、風で動くアート作品をあそこに顕在できるかもしれない。

戸山 そういう作品があると、音楽の学生や教員が校舎に入ってきた時、また廊下を歩いた時にすごく楽しいと思います。

卒業生らも演奏できる 開かれた劇場にしたい

戸山 4月23日に、地形劇場のこけら落とし公演を予定しています。オープニングコンサートには、オーケストラと合唱、それから先ほど清野さんのお話をしましたが、彼女が指揮するウインドオーケストラにも出演いただくと思っています。学生たちの自主企画もあるかと思っていますので、どんな内容になるのか楽しみにしているところです。同時に、室内楽ホールでいろいろな演者が入れ替わり立ち替わり演奏

を繋いでいく、マラソンコンサートというのを考えています。

安原 戸山学長から「卒業生からの利用希望があった」という話がありました。まずはこけら落としの時に卒業生にも出演いただける場を設けることで、今後学外からの利用申請にどのように対応していくのか考えていきたいと思っています。

長井 地形劇場では、清野さんが指導している子どもたちが演奏するのですか？

戸山 ウインドオーケストラのメンバーには中学生から高校生、大学生、一般の方、いろいろな年齢層の方が集まっているそうですよ。

安原 そのウインドオーケストラの指導を、本学の管打楽器の学生がよくサポートしているという繋がりもあるので、もしかしら現役学生も演奏に加わるかもしれませんね。

倉地 それは盛り上がりそうですね。ヨーロッパではちょうとした広場みたいなところに楽器を持った人が集まってきて、演奏会になることがあります。日本の盆踊りみたいに、市民がだんだん集まって来ますよ。あんな雰囲気があるところでも実現できれば素敵だと思います。

戸山 石造りの建物や石畳に囲まれたヨーロッパの街は音も響きますから、演奏にはいい環境ですね。一方、ニューヨークのセントラルパークや、ベルリンのヴァルトビューネなど、周りが芝生や森のロケーションでも野外演奏会はおもしろい。寝っ転がりながら、サウンドイッチやドリックを片手に演奏を聴いているんですよ。

倉地 それもいいですね。

戸山 だから、普通ならコンサート会場内は飲食禁止の場合が多いけれど、少なくともこの地形劇場では自由にしたいですね。



愛知県立芸術大学管弦楽団 第33回定期演奏会

この何年か、日本の第線で活躍されている指揮者、世界的に活動されている指揮者を客員教授にお迎えし、充実した演奏を披露している愛知県立芸術大学管弦楽団ですが、2022年度定期公演では、2019年に続いて高関健氏を擁して、ラヴェルの性格の異なる2つのワルツ、「高雅で感傷的なワルツ」「ラヴァルス」を前半のプログラムに、後半ではシオスタコヴィチの交響曲第10番というプロのオーケストラでも難曲といわれる作品に挑戦



しました。高関先生は明確な棒裁きで作曲家の意図するところを的確にオーケストラに示されていました。また学生たちも良く応えて、コンサートは感動的な素晴らしいものとなりました。2023年度は2018年以来となる、尾高忠明氏指揮での定期演奏会を11月19日に行います。尾高先生の音楽に学生諸君がどのくらい肉薄できるか、乞うご期待です。

花崎薫(音楽学部弦楽器コース教授)

2022年度のアーティスト・イン・レジデンスでは、美術分野で2名のアーティストを招聘しました。

1人目は、学外公募により採択されたハルドラ・マグナス・ドットイル氏(フランスで活動している美術家、7月~9月)を招聘し、ワークショップ、トークイベントおよび展覧会を開催しました。

2人目はマリエラ・モスラー氏(美術家シユトウトガルト美術アカデミー教授、10月~11月)を招聘し、トークイベントや本学油画専攻大崎宣之准教授と共同での展覧会を実施しました。滞在制作やアーティスト

アーティスト・イン・レジデンス2022



ハルドラ・マグナスドットイル氏「Reproverse」展示風景／愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA



マリエラ・モスラー氏「トラベル・ノート／シユトウトガルトと愛知2021-2022」展示風景／愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA



キム・ミョンボム氏の作品制作について村尾准教授と学生が話し合う様子



上・右下:展示風景／愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA



芸術講座の様子／本学新講義棟



トトーク等のプログラムは、多様な文化や芸術に触れる機会となりました。教員や学生と交流を深めることにより、研究・教育の場としての成熟に繋がりました。

また、コロナ感染拡大により海外渡航が難しくなる中、韓国の美術家キム・ミョンボム氏の作品を英文メールによる指示や図面を読み解き、遠隔指示によって学生たちが制作する「リモートアーティストインレジデンス(AIR)プロジェクト」を本学彫刻専攻村尾里奈准教授が企画し実施しました。工藤トモミ(芸術情報・広報課)

磯田尚男 「デザインは手からはじまる」

本学の名誉教授である磯田尚男先生(1932~2020)は、創立間もない1969年から30年もの長きにわたり、デザイン専攻の礎を築くために尽力されました。

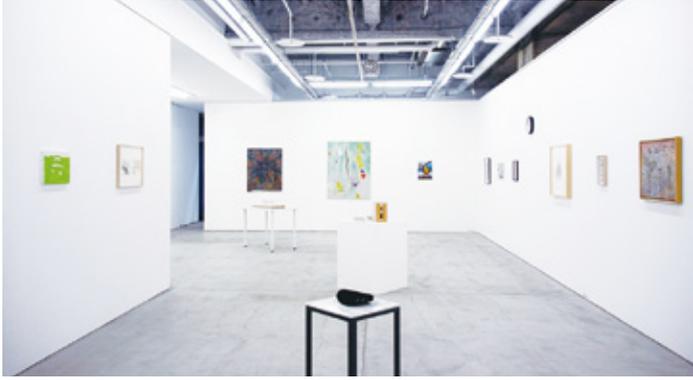
展覧会「デザインは手からはじまるー愛知芸大デザインの系譜 磯田尚男」は、文学や禅、狂言から着想を得た作品、切手や雑誌のデザインなど、磯田先生の多岐にわたる創作活動の一端を約40点の作品で振り返りました。

また、芸術講座「デザインは手からはじまる」磯田尚男の薫陶」では、登壇者から当時の出来事や、知られざる制作の裏側などをお話いただきました。会場からも「穏やかに接してください」「いつも怒られていた」といったエピソードが紹介され、それらが卒業後も折に触れて回顧されるやり取りになっていることが、とても印象的でした。学生に対し分け隔てなく、愛情をもって接していただいた先生の人柄が偲ばれました。

川上真由子(芸術資料館学芸員)

＜Exhibition to remember＞SHITARA 設楽知昭に寄せて

2021年夏に急逝された設楽知昭先生を偲び、教員卒業生親交があった作家や関係者を中心に、2023年1月7日(土)～1月22日(日)に本学サテライトギャラリーSAKURAにおいて追悼展覧会を開催しました。設楽先生は画家としての業績だけでなく、教育や文化活動を通してこの地域に与えた影響は大きく、その功績をたたえた展示内容でした。



上・右下:展示風景/愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA



ギャラリートークの様子

立体作品10点程度、教員・卒業生・親交のあった作家25名による作品群の併設展示に加え、親交のあった批評家である名古屋大の学情報文化学部 秋庭史典准教授と名古屋造形大学美術表現領域 高橋綾子教授によるギャラリートークを行いました。多くの鑑賞者が来廊され、関心の高さが伺われる充実した企画となりました。

倉地久(副学長/美術学部油画専攻教授)

国際芸術祭あいち2022にて

本学出身であるアーティスト 奈良美智さんの発案により、国際芸術祭あいち2022へ愛知県立芸術大学内でのプロジェクトとして出品することが出来ました。

本学の専攻を超えた学生・教育研究指導員を中心に、芸術祭のテーマ「Still Alive」と奈良美智さんから出されたお題「三英傑」、プロジェクトチームが定めた「コンテナ」を軸に、パフォーマンステイクアウトを主軸に、パフォーマンスを展示しました。



複数の荷役された三英傑像

まとめ上げた今回のプロジェクトは、様々な関係者からの協力を仰ぎながら若い世代が、作り上げた作品として、高く評価されたことと思います。

現在、世界的アーティストの第一人者である奈良美智さんは、2011年の半年間、本学のアーティストレジデンスとして滞在制作を行いました。その時に交流した当時の学生達の多くは、アーティストとして活動しています。点から線へ繋がっていく構造は、大学機関としての責務として、これからも続いていく事でしょう。

森北伸(美術学部彫刻専攻准教授)

2022年度音楽キャラバン

これまで富山、福岡、山形、大阪、兵庫など各地の音楽高校を訪れ、一定の成果を挙げてきたキャラバンですが、今年も当地である愛知の明和高校、菊里高校、そしてお隣岐阜の加納高校の計3校を訪問しました。

まずは安原学部長と成本准教授による学校案内から始まり、桐山教授、北住教授、ブルックス准教授、武内准教授、小原教授、井上准教授によるコンサート(演奏順、加納高校では橋本准教授も演奏)が行われました。生徒たちが解説や演奏を食い入るように聞いてくれている姿が印象的でした。その後のレッスンにも受講・聴講生両方から質問が来たりなど、とても熱心に参加してくれました。

この3校からは多くの学生が本学に入学しますが、今回彼らが学んだ環境を実際に見ることができた事は我々にとつて貴重な経験となりました。受験生へのPRという目的を超え、この地域の音楽教育の発展に貢献できる有意義な企画である事を再認識出来た2022キャラバンでした。

井上圭(音楽学部管打楽器コース准教授)





美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻
池田 泰教
いけだ やすのり

僕はこれまでアートフィルムやドキュメンタリー/フィクションといった撮影を伴う映像作品を制作してきました。また近年は映画資料やメディアアートに関わるアーカイブ研究にも取り組んでいます。このように書くとき少し雑多な自己紹介だなと感じるのですが、映像という表現もまた、出自からして雑多さを含んだもので、そのせいもあるのではないかと(勝手に)思っています。

撮影を伴う表現というのは今生きている世界の断片を素材とするような行為でもあって、そこには意図を超えた複雑性や多面性が潜んでいます。それらを意図

の範疇に収まるよう、ある程度までコントロールすることも一つの表現方法で、それは基礎と呼ばれたりもする、大切な技術です。しかし同時に、思いもよらない現実の様相と、その人なりの仕方であり取りを重ねる過程もまた、表現の重要な二部を成すものと思っています。

「木を植えねばならない、だが周りの地面をセメントで固めてはいけない」と言ったのはアレクサンドル・ロフだったと思いますが、自分もそのような両義性に惹かれ、時に引き裂かれながら、今後もできることを模索していきたいと思っています。



BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW
#04 Ghosts
2021/HD/Color/Stereo/5min



美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻
有持 旭
ありもち あきり

これまで国内の大学で専任教員として7年間勤めていました。それ以外に、エストニアとインドの国立芸術大学でアニメーションの指導をしていたこともあります。そうした経験を愛知県立芸術大学で活かしていきたいと思っています。

専門はアニメーションです。作品は国際映画祭や美術館で発表しています。また、エストニア芸術史、なかでもアニメーションと風刺画の研究をしています。2022年は、サウジアラビアの世界文化センターとポーランドのアニメーション・スタジオと組んで新作アニメーション



『<星空と犬の散歩>に基づく音楽のためのアニメーション』2014年
『マテリアルとメカニズム』展(国際芸術センター青森)
写真:山本糾
写真提供:青森公立大学国際芸術センター青森

メーションを制作していました。2023年は、研究のため招聘されたイェール大学で研究を行い、成果物として新作アニメーションを発表する予定です。また、エストニア芸術史の研究も継続して行っています。

将来的には、アニメーションのゼミ生が音楽学部の学生たちと共に、ひとつの映像作品を制作することが可能な環境を構築していきたいと考えています。専攻生共々、よろしくお願いたします。



音楽学部音楽作曲専攻音楽学コース
七條めぐみ
しちじょう めぐみ

2022年4月より音楽学コースに着任いたしました。私は2006年に愛知県立芸術大学のピアノコースに入学し、大学院からは音楽学を専攻して博士後期課程(進学、パリソルボンヌ大学への協定校留学を経て、博士号取得後は非常勤講師として勤務していました。通算すると、愛知芸大とのお付き合いは17年になります。このたび母校に着任できたことを大変うれしく思います。

私は西洋音楽史の中でも、バロック時代におけるフランス音楽の国際的な広がり、および近代東アジアにおける西洋音楽の実践と

いう二つのテーマを中心に研究しています。これらに共通するのは、音楽史の「横のつながり」に注目するという点です。異なる地域がどのように影響しあっていたのか、音楽文化を伝えたのはどんな要因だったのか、そのような視点をもつて研究しています。学生の頃、先生方から教えていただいたのは「ワクワクし続ける姿勢」でした。学問や研究、自己表現には時に苦勞がつきものですが、それを超える「ワクワク」を学生の皆さんと一緒に追求してまいりたいと思います。

message

退任教員紹介

16年間、本当にお世話になりました。長かったのか、短かったのか、わかりません。今まで組織に所属した最長は6年間でしたので大幅に更新したわけです。

3浪し、やっと東京藝大、愛知芸大、武蔵美に合格。3校とも憧れの大学でした。学生にはなれませんが、教員として本学に着任できた事は奇跡であり、夢のまた夢でした。

とても不思議な事なのですが、**夢は叶うのです**。人生は95%以上が苦労の連続だと思のですが、1%の夢が叶えば、残りの全ては糧となつて、オセロのように全部ひっくり返り、意味が変わるんだと思えました。これが今現在の心境です。



アイアン・バイオリン
(作・小林大地)

美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻
いまあ・たいぞう
今尾 泰三



2022-2023

今も、やはり人生は過酷です。ポーツとしていると、ビンタされてすぐに現実に引きずり戻されます。

着任時(2007年)、学報に書いた言葉をまた書きます。

諦めず、夢を叶えよう!

今、皆さんに、もしかして、死ぬ時多分こう言うのかもしれない。

ありがとう。

サヨナラ。元気だね。ではまた。

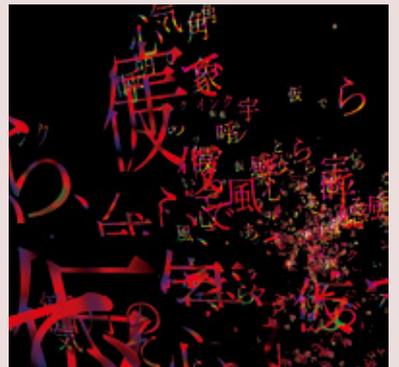


美術学部デザイン・工芸科
メディア映像専攻
関口 敦仁
せきぐち・あつひと

2013年にデザイン専攻の教授として着任しました。当初は情報やプロトタイプینگ系の設備がなく、どのように授業しようかと頭を悩ませました。

しばらくして、創立50周年記念事業の企画ディレクションを依頼されましたが、着任したばかりの私には大変荷が重く苦労しました。卒業後活躍している作家たちにも参加していただき、専攻それぞれの企画やメインの創立50周年記念展覧会「芸術は森からはじまる」の大学構内の野外も含めた展示により、開催することができました。構内の植栽は現在ほど管理されておらず、危険なところも含めて伐採や整理もしました。設立当時から50年でこんなにも森化するのかと驚きました。それが卒業生達のアイデンティティの一つとなっていることも実感しました。

その事業も無事開催し、やれやれと思つていたところ、今度はあらたにメディア映像専攻設置の依頼がありました。デザイン専攻に骨を埋めるつもりで、ここに来たはずが、自分がメディア系の研究領域で活動しており、



仮想内観—心象スケッチ
2022年作
VRインスタレーションCG画像

また前職のメディア系大学の立ち上げもしていたことから任せられることになりました。予算算出のための設備や機材リスト作りから、カリキュラムや各研究分野での教員配置などの叩き、旧デザイン棟リニューアルのインテリアプランに至るまで行いましたが、生来、なんでもゼロから作り上げることは好きではあるので、とても大変でしたが楽しかったです。

おかげさまで、今年度の4月からメディア映像専攻が始まり、10名の学生達が楽しんで授業を受けています。何もまたわからない学生達が何かをつかんだ瞬間や作り上げて喜びを得た瞬間を目の当たりにすることで、この学校に来て良かったなと思つています。

今年度をもつて常勤の教授は退任しますが二期生が卒業するまで見届ける責任もあり、まだしばらくは特任教授として研究指導を続けます。引き続き、あと数年間は学校の新しい活動のサポートが出来ることを楽しみにしています。

土を焼いて魅せる非現実な自然



「古へ語り」
 本学芸術資料館での
 展示風景

最近の作品は、私自身が普段から影響を受けている自然と陶芸の素材となる土との関係性を改めて考えている中で生まれた想いから始まりました。自然の中で動物が死に絶えると、朽ちて様々な生き物に分解され土に還ります。そこから芽が出て成長し、やがて葉をつけた樹木も枯れ、土の養分となり繋がっていきます。私が扱う粘土も数百万年から数千万年かけて岩石が変質して出来てきました。岩石自体も長い目で見れば循環するといえます。こうした土や生き物の循環をテーマに骨や植物をモチーフとして扱い、現実にはない自然的な造形を目指しています。



大学院美術研究科
 陶磁領域
 博士前期課程 2年

中嶋 草太
 なかしま・そうた

人間社会によって形成される人間像の研究



富山県での展示
 展示中に部屋にある
 ロープを編み、自身が
 中に包まれる

現在は、「人間社会で暮らすうちに形作られていく人間像」を主に編み物などを使用して彫刻的な視点で研究しています。日常生活を繰り返していき中で、気がつくとも自然と纏わりつく私(もしくはあなた)というイメージがどのような形をしているのか、一体それがなんであるのかを制作を通して考えています。発表の場においては、パフォーマンスを行い作品の中に自分を巻き込みながら作品を体験するとともに、鑑賞者にも自身の体験を共有できるよう心がけています。



大学院美術研究科
 彫刻領域
 博士前期課程1年

内藤 光穂
 ないとう・みつほ

向き合う心



三重での新人コンサート
 時の写真(2022年10月)

現在私は、音楽学部の3年生です。ソロではソナタを中心に学んできましたが、他にも取り組みたいソロの曲や室内楽、オケ、まだまだ学びたいことが沢山あります。その学びたい気持ちを忘れずに、自分の演奏と向きあうことを大切にしています。それが日本学生音楽コンクールなどのコンクールで賞をいただけたりと結果に繋がっていると思います。大学で勉強できるのも残り一年ほどとなりました。これまで以上に一つひとつの本番を大切にするとともに、今後も挑戦し続ける心を忘れずに取り組んでいきたいです。



音楽学部音楽科
 器楽専攻 弦楽器コース
 3年

溝口 琴音
 みぞぐち・ことね

明治座にて上演

ミュージカル「チェーザレ 破壊の創造者」に出演



ミュージカル「チェーザレ
 破壊の創造者」
 楽屋にて

プロのミュージカルに出演する。そう決まった時、喜び1割不安9割の状態でした。初舞台だし、ほぼ未経験だし、休学することになるし…そんな中、師事している小原啓楼教授に厳しくもあたたかく背中を押していただきました。経験豊富な方々しかいないプロの現場。必死に食らいついて、もがいて、落ち込みながら前を向いております。この大学で、小原門下で学んだこと、気づけたこと。緊張で忘れてしまいそうになりますがしっかりと胸に刻んで本番に臨んでいます。自分なりに悩んで葛藤しながら迎えた初日。舞台から見えた客席の光景は圧巻でした。この体験をしてよかった。改めてそう思います。



音楽学部音楽科
 声楽専攻
 3年

矢木 俊也
 やぎ・しゅんや

「空と森と根っこ」



美術学部デザイン・工芸科 陶磁専攻 1993年度卒業

宮部 友宏 みやべ・ともひろ

陶芸家・造形作家、studio record代表
1994年 大幸財団 丹羽奨励金(芸術研究)
2014年 TOKYO・NEW YORK FRIENDSHIP CERAMIC COMPETITION 佳作賞<ニューヨーク>
2021年 国際陶磁器展美濃 銀賞(studio record/宮部友宏)
1996年以降、韓国、中国、オランダ、アメリカなど、国内外のギャラリーや美術館等で展示
パブリックコレクション・陶溪川アートセンター(中国)
個人の活動の外、工房として内装タイルや什器の制作からアートイベントの企画運営まで幅広い活動を行っている



国際陶磁器展美濃展示会場
作品record



宮部個展作品2020
ギャラリー数寄

ランウェイを歩く服を観てデザインに興味を持ち始めたのは中3の頃でした。しかし中学、高校、浪人と、授業をサボることと音楽を聴くこと、映画を観ることくらいしかしていませんでした。

その後、進んだデザインの短大も3ヶ月で辞め、日本の伝統を感じたいと京都で暮らし始めました。清水焼団地での陶壁制作や西陣帯の絵付けをした後、模倣品に近い工芸品を作る所で働いた時、もう一度美術の勉強をしようと愛知芸大に入学しました。

入ったのは陶磁専攻でしたが、好きだったのは現代美術でした。

4年になった時、父が重い病にかかり親の死と向き合うことになりました。そのことにより卒業制作のテーマが時間(命)となり、その作品によって

INAXギャラリー2(東京)という現代美術のギャラリーから大学を通して個展候補の話が来ました。それから1年程で父は亡くなり、翌年には母が倒れ、東京でデザインのバイトをしていた僕は実家(愛知)に戻りました。

そこからはその時にできることをただ積み重ねて来ました。器を沢山作り展覧会で売り、高校の非常勤講師となり、人を雇い工房を始め、オブジェの個展を行い、幾つかの名義やチャンネルを使い分けながら自分が乖離しないようにしました。でもそれは嘘です。大学の恩師・鯉江先生が工房に寄ってくれた時、チャンネルを切り替えている悩みを話しました。先生は「そのまま抱えてやっていけ、そこから精神性がぶにゅっと出るから」と言いました。何を作るかはどう生きるかなんだ、と思ったのはその頃でした。

組織で物を作る時と個人で作る時は使う脳が違います。組織で作る場合は制作する人の手の癖まで考えてイメージを固めます。自分にしかできないことは個人の制作で表現します。運営ではさらに違う脳を使います。

マネージメントが一番苦手ですが、僕が現在やっていることの多くは組織として暮らしと美術を結ぶことです。

一昨年、国際陶磁器展美濃のデザイン部門で銀賞を受賞しました。工房作品です。今年2月から5月まで多治見市モザイクタイルミュージアムで、私たちの工房の企画展が開催されます。個人の制作も続いています。脳も少し溶け合ってきた気がします。愛知芸大の静かな空と森の中、自分と向き合うことができた時間が今も根っこにあります。

「創作上の原風景」



(撮影:井上岳)

音楽学部音楽科 作曲専攻 2017年度卒業

波立 裕矢 はりゅう・ゆうや

2016年 度公益財団法人青山音楽財団奨学生
2018年 第35回現音作曲新人賞受賞
2019年 近作による室内楽個展を開催
2020年 第89回日本音楽コンクール作曲部門1位
2021年 東京藝術大学大学院修士課程作曲専攻修了
2022年 KKA建築巡回展「五感の建築」館内環境音楽制作
2022年 第32回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞
これまで小崎光洋、山本裕之、久留智之、鈴木純明の各氏に師事
作曲の会「たんぽぽ」共同代表
桐朋学園大学、東京都立総合芸術高等学校、茨城県立水戸第三高等学校音楽科非常勤講師



KKA建築巡回展「五感の建築」記念オンラインコンサートの様子
@COEDA HOUSE (隈研吾建築)

実を言うと、高校の途中までは作曲にほとんど興味がありませんでした。

はじめて作曲に取り組み、曲を完成させたのは高校3年次の県芸のオープンキャンパスにむけて、ということになります。事前に作品を送ると、学校で奏者を探してくれて、演奏してもらえという太っ腹な企画を知り、2週間で曲を書き、送りました。作曲自体はなかなかきつい作業でしたが、自作が人の手によって演奏されたとき「報われた」と、作曲の喜びを感じることができ、その機会を用意してくれた県芸に入学しようと心に決めました。そのとき書いたのは「夢」という歌曲(詩:谷川俊太郎)で、今でも気に入っている作品の一つです。

県芸での学生生活の思い出や経験は、挙げればきりがありませんが、なによりその環境から得るも

のが多かったと感じています。

特に2013年に竣工された室内楽ホールの存在で、私は沢山の経験を積むことができました。作曲家にとって、なるべく現場に近い形で音をイメージすることが重要なのは言わずもがなですが、同ホールを芸祭や試演会、それらのリハーサルで半ば日常的に使えたことによって、ホールでの響きが体得できたと感じています。

授業では、どういうわけか聴講した大学院の授業や、美学、演劇論、文学論、心理学のような音楽外の授業の記憶が鮮明に残っています。

大学院の指揮法の授業では、外山雄三先生、松尾葉子先生のような現場の第一線で活躍される指揮者の先生方から、指揮の技術のみならずリハーサルの段取りのような実践的な作法まで教わ

ることができました。また、例年開講される北爪道夫先生の「現代の音楽」のように、演奏や作曲、音楽学の学生が一堂に集まり、三日間、現代の音楽について思い残すことなく話し尽くす講義があるのも、県芸の素晴らしいところだと思います。

正直を申せば、私に作曲家としての芽が出はじめたのは、県芸を卒業してからのことです。しかしながら、芥川也寸志サントリー作曲賞を受賞した「失われたイノセンスを追う。II」をはじめ、自作の多くは、学部時代に書いた作品や、同時期の何らかの着想が源泉となっています。その時はうまく語るができなくても、いつか語らなければならぬ(語らなければ自分の気が済まない)何かかひたすらたまってゆく、そんな4年間で私の県芸での学生生活であったように思います。

news

在学生・卒業生・修了生の昨年の主なニュース

期間:令和4年1月から令和4年12月まで

※卒業・修了年は年度で記載しています。学年は受賞時のものです。

美術学部/美術研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名	
日本画	深見 早苗	博前 2年	再興第107回院展	入選	
	富田 佳子	博前 2年	(公財)佐藤国際文化教育財団第31回奨学生美術展	PIGMENT TOKYO賞、 珠中里賞	
	奥川 夏妃	博前 1年	再興第107回院展	入選	
	深見 早苗	博前 1年	第77回春の院展	入選	
	奥川 夏妃	博前 1年	学生選抜展2022	優秀賞	
	奥川 夏妃	学部 4年	第77回春の院展	入選	
	樋口 絢女	学部 2年	100人10exhibition	入選	
	油画・版画	尾崎 真理子	博前 2年	FACE展2022	入選
		新山 珠羽	学部 2年	LIQUITEX THE CHALLENGE2021	入選
	彫刻	新山 珠羽	学部 2年	KOWALI展 VOL.XII	出展
		北園 大和	博前 2年	第22回学生限定立体アートコンペティション	入選
	デザイン	土田 侑美	博前 1年	株式会社バンダイナムコスタジオ 課題にチャレンジ! ビジュアルデザインlevel up講座	最優秀賞
青山 めい		学部 4年	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会HP	WEBサイトデザインが 公式コンテンツに採用	
陶磁	青山 めい	学部 4年	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会	パネルが特別展示	
	前川 咲貴	学部 4年	2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞	入選	
	大西 真央	学部 3年	AICHI AD AWARDS 2022 学生広告賞	SECOND PRIZE	
	山本 菜奈	学部 3年	2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞	入選	
	前田 正剛	1992 卒業	第五十三回東海伝統工芸展	名古屋市長賞	
	石原 菜由子	博後 3年	2022伊丹国際クラフト展	入選	
	趙 宰堂	博後 3年	2022伊丹国際クラフト展	入選	
	宮下 陽	博後 3年	第五十三回東海伝統工芸展	愛知県知事賞	
	金 慧仁	博前 2年	2022伊丹国際クラフト展	入選	
	前澤 朋佳	博前 2年	第76回新匠工芸会展	佳作賞	
長澤 舞	博前 1年	第五十三回東海伝統工芸展	安藤氏賞		
伊藤 彩希	研修	第56回女流陶芸公募展	女流陶芸新人賞		
林 弥生	学部 4年	大東亜産業デザインコンペ2022	最優秀賞		

音楽学部/音楽研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
作曲	柴田 誠太郎	2018 修了	オーケストラ・アンサンブル金沢(和洋の響 III) オーケストラ作品(新曲)募集	優秀作品
	波立 裕矢	2017 卒業	第32回 芥川也寸志サントリー作曲賞選考演奏会	第32回芥川也寸志 サントリー作曲賞
	古木 彩音	博前 1年	Franz Schubert Konservatorium:3.WORLD CHAMPIONSHIP IN COMPOSITION	第2位
	内垣 亜優	学部 3年	第8回日本国際合唱作曲コンクール	第3位
	藤瀬 愛	2013 修了	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Bの部 特別賞
	舟倉 悠利	2017 修了	スター・クラシックス・アカデミア 第3期生合格	
	川越 未晴	2017 修了	第20回東京音楽コンクール	声楽部門 第3位
	竹内 穂乃香	2019 修了	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Aの部 奨励賞
	永 ひろこ	1986 卒業	令和4年度 豊田青少年育成功労賞	
	竹多 倫子	2005 卒業	2022年度 第16回岩城宏之音楽賞	
	竹多 倫子	2005 卒業	令和3年度 石川県文化奨励賞	
	山本 高栄	2007 卒業	第89回NHK全国学校音楽コンクール	中学校の部 銅賞(指揮・指導)
山本 高栄	2007 卒業	第75回全日本合唱コンクール	中学校部門混声合唱の部 金賞(指揮・指導)	
	伊地知 玲奈	2010 卒業	第2回国際声楽コンクール東京	ミュージカル部門 東京予選最優秀賞、本選入選
	富永 果捺子	2017 卒業	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Aの部 第2位
	葛巻 しおん	2019 卒業	第2回国際声楽コンクール東京	歌曲部門 入選
	葛巻 しおん	2019 卒業	第27回みえ音楽コンクール	声楽部門 一般の部 奨励賞
	松橋 香音	2019 卒業	第2回国際声楽コンクール東京	ミュージカル部門 入選
	長江 希代子	博後 3年	第20回藤井清水音楽コンクール	優秀賞
	柴田 千沙都	博前 2年	第2回国際声楽コンクール東京	本選 新進声楽家部門 入選
	柴田 千沙都	博前 2年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
	寺島 大雄	博前 2年	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Aの部 本選 特別賞
	寺島 大雄	博前 2年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
土井 里佳子	博前 2年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 第2位、全国大会 入選	
	中村 清美	博前 2年	第2回バーゼル国際声楽コンクール	大学生・院生の部 本選 奨励賞
	中村 清美	博前 2年	第3回フィオレンツァ・チェドリンズ オンライン クラシックスヴォイスコンクール	イタリア本選 特別賞
	奥村 心太郎	博前 1年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
	川口 桃佳	博前 1年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 第3位
	小坂 千尋	博前 1年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 第1位、全国大会第3位

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
声楽	清水 光希	博前 1年	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Aの部 入選
	中村 清美	博前 1年	第75回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
	岡本 莉子	学部 4年	2022年岐阜国際音楽祭	声楽部門 大学生部門 第1位
	岡本 莉子	学部 4年	第2回国際声楽コンクール東京	大学生部門 入選
	加藤 千聖	学部 4年	第18回東海音楽フェスティバル 岐阜大会	銅賞
	日下 萌音	学部 4年	Concours d'Honneur 2022(フランス)	Mention TRÈS BIEN (入選)
	日下 萌音	学部 4年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
	黒田 真央	学部 4年	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 本選 大学生の部 第1位、愛知県知事賞
	西山 貴彦	学部 4年	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 本選 大学生の部 特別賞
	宮崎 親央	学部 4年	第31回ブルクハルト国際音楽コンクール	声楽部門 入選
	森川 知也	学部 4年	第76回全日本学生音楽コンクール	声楽部門 大学の部 名古屋大会 入選
	居島 優海	学部 3年	第2回国際声楽コンクール東京	大学生部門 入選
	伊藤 美里	学部 3年	第24回日本演奏家コンクール	声楽部門 大学の部 入選
	蚊戸 敦史	学部 3年	第1回東京国際管弦楽コンクール	ミュージカル部門 学生の部 第2位
	佐伯 昌恭	学部 3年	第2回国際声楽コンクール東京	大学生部門 入選
	堀内 太一郎	学部 3年	2022年岐阜国際音楽祭	声楽部門 大学生部門 第2位
	池田 真由子	博前 2年	第29回国際ピアノコンクールin知多	金賞
	池田 真由子	博前 2年	第12回岐阜国際音楽祭	ピアノ一般1部門 第3位
	池田 真由子	博前 2年	第32回ブルクハルト国際音楽コンクール	ピアノ部門 第4位
	関口 詩織	博前 2年	第6回ベートーヴェン国際ピアノコンクール アジア	D部門 第5位 テンポリモ賞
鍵盤楽器	天野 穂乃香	博前 1年	2022International Music Competition "Vienna" Grand Prize Virtuoso	Senior Category 第1位
	渡辺 千尋	博前 1年	第67回県下ピアノ/独奏コンクール	大学生・一般の部 最優秀賞、 愛知県知事賞
	石田 明日香	学部 4年	第15回ペーテン音楽コンクール	ピアノ部門 大学・院生Aの部 第1位
	奥田 琉花	学部 4年	第25回「長江杯」国際音楽コンクール	ピアノ部門 大学の部 第1位、 理事長賞
	加藤 愛梨	学部 4年	第38回PTAピアノ/オーディション(D部門) 全国大会	優秀賞
	光行 彩香	学部 4年	第40回滋賀県ピアノコンクール	学生・一般部門 第1位
	山田 ありあ	学部 4年	第1回プリモ芸術コンクール	準グランプリ
	山田 ありあ	学部 4年	第32回ブルクハルト国際音楽コンクール	ピアノ部門 第1位
	吉岡 瑞貴	学部 4年	第33回愛知県尾東音楽コンクール	ピアノF部門 金賞、 長久手市教育委員会賞
	吉岡 瑞貴	学部 4年	第8回刈谷国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 奨励賞
	市原 風太	学部 3年	第9回おおによし音楽コンクール2022 本選	プロフェッショナル・ステージ ピアノ部門 第1位、グランプリ、 総務大臣賞
	開坂 望生	学部 3年	全日本ピアノコンクール2021 全国大会	F級(大学生部門) 第1位
	開坂 望生	学部 3年	第8回下田国際音楽コンクール	プロフェッショナル部門 審査員特別賞
	河内 花菜	学部 3年	第27回みえ音楽コンクール	ピアノ部門 本選 大学生以上 一般の部 第1位 三重県知事賞
	山田 ありあ	学部 3年	第4回ラング国際オンラインピアノコンクール	第1位
	吉岡 瑞貴	学部 3年	第42回日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 大学生の部 第5位
	大堀 はな	2020 卒業	シュレスヴィヒ=ホルシュタイン祝祭管弦楽団 オーケストラメンバー オーディション	合格
	飯田 桐乃	博前 2年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ 名古屋 オーディション	合格
	梅村 直弥	博前 1年	第32回日本クラシック音楽コンクール	コントラバス部門 大学の部 第5位
	稲田 悠佑	学部 4年	第2回P-NEXTチェロコンクール	グランプリ、聴衆賞、豊田市長賞、 豊田市文化振興財団賞
	稲田 悠佑	学部 4年	第31回ブルクハルト国際音楽コンクール	室内楽部門 第4位
	猪子 奈津子	学部 4年	パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌(PMF) 2022オーケストラ・アカデミー	合格
	猪子 奈津子	学部 4年	新進演奏家育成プロジェクト リサイタル・シリーズ NAGOYAオーディション	合格
	猪子 奈津子	学部 4年	小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXIX オーケストラオーディション	合格
	猪子 奈津子	学部 4年	第8回仙台国際音楽コンクール 関連事業 「審査員によるマスタークラス」受講生選考	合格
	梅村 直弥	学部 4年	第31回ブルクハルト国際音楽コンクール	室内楽部門 第4位
	猪子 奈津子	学部 3年	第27回KOBÉ国際音楽コンクール	弦楽器部門 C部門 優秀賞
	上野 遥夏	学部 2年	ぎふ弦楽器貸与プロジェクト<STROAN> 第2期弦楽器貸与審査	借受者に決定
	上野 遥夏	学部 2年	第12回クオリア音楽コンクール	大学生部門 第1位
	朽木 彩音	学部 2年	ピアチェレNEXT 第1回コントラバスコンクール	クワザワイオリン賞
管打楽器	窪田 翔輝	学部 2年	第15回ペーテン音楽コンクール 全国大会	自由曲コース 大学・院生Aの部 第2位
	中村 明里	学部 2年	第82回TIAA全日本クラシック音楽コンサート	入選
	日下部 任良	2008 卒業	レコード芸術 2022年6月号	吹奏楽/管・打楽器部門 特選盤 選出
	日下部 任良	2008 卒業	音楽現代2022年7月号	推薦盤(現代音楽・その他) 選出
	木村 玲	2020 卒業	第17回チェジュ国際金管・打楽器コンクール	ユーフォニアム部門 第2位
	狩野 将輝	学部 4年	第19回イタリア国際打楽器コンクール	スネアドラム部門 CategoryB 第3位
	狩野 将輝	学部 3年	第24回「万里の長城杯」国際音楽コンクール	打楽器部門 大学の部 第2位
	小谷 由里香	学部 3年	第6回JETA学生ソロコンクール	ユーフォニアム シニア部門 第5位
	畠山 弘人	学部 3年	第8回刈谷国際音楽コンクール	フルート部門 一般の部 奨励賞

